

# 渥美郡三町の時代



郷土史編さん室 ☎ 36-6503

## 藤七原湿地の植物

### ◆絶滅した湿原の植物

衣笠山の東、小衣笠の北のふもとにある藤七原湿地の植物について昔の記録（小柳津弘氏／1970年／81種）を調べてみました。すると、今の藤七原湿地では見られなくなった植物が18種もあることが分かりました。



▲県全体でも絶滅種とされるオオミズトンボの図1981.9.13（執筆著作）

これらの湿原植物は、スギの植林、ウラジオなどの周辺の植物の成長による日

えられます。



●田原町天然記念物の指定を受けた当時（1991）のシデコブシ

主なものは、1980年には既に絶滅していたトキソウのほか、イヌノハナヒゲ・ハリリンドウ・モウセンゴケ・ミミカキグサ類などの湿原に生える植物です。中でもオオミズトンボは愛知県全体でも絶滅種とされています。もともと冷温帯の湿原に生える本種が渥美半島にあったことに驚かされますが、約2万年前の寒冷期の生き残りと考えられます。

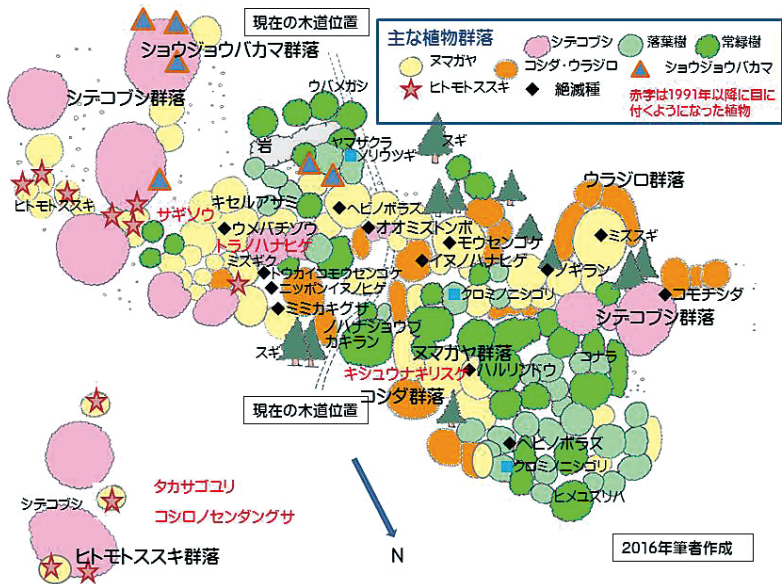
### ◆現在も見られる植物

もちろん、現在でも何とか生き残っている種類もあります。春に咲くシヨウジョウバカマ（激滅）、6月のカキラン・ノハナシヨウブ、8～9月のミズギク、10月のキセルアザミなどです。

このほか、1991年以降になつて目に付くようになった植物にトラノハナヒゲ・キシユナキリスゲなどの絶滅危惧種もあります。

そのほか、タカサゴユリ・コシロノセンダングサなどの外来種や人為的に植え込まれたサギソウ（2013年）な

藤七原湿地の主な植物分布図（1981年調査図を基に絶滅と赤字の植物を追加）



ど、注意しなければならぬ種類もいくつかあります。藤七原湿地を訪れた際、誰にも気付かれずに生えたり消えたりしているこれらの植物の名前を思い出していただければ幸いです。華やかさはなくても、その場所でも強く、現在を生き延びている植物（個々の種類と植生）を見守っていきたいものです。（執筆委員・八木将勝）